



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 11 回：三方よしで成長を目指す行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。この「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。

第 11 回は、行橋市を拠点に活躍中の若手行政書士、『リエゾン行政書士事務所 景山 康幸会員』を訪ねました。

広報部(以下「広」): 景山会員、本日は取材に応じていただきありがとうございます。行政書士登録をされて、間もなく丸3年とのことですが、まずは行政書士になられたきっかけをお聞かせいただけますか。

景山会員(以下、「景」): 元々は兵庫の出身で、高校卒業後、社会人としてのスタートは製造業でした。天井クレーン運転士や玉掛け※1の仕事に7年従事し、大手の会社に転職して製鉄の現場で働きました。

その後、化粧品会社に転職をして設備の仕事をしているときに、妻と出会って結婚したんです。そして令和3年に妻の地元である福岡県へ移住することになりました。

新しい土地で、仕事をどうしようかと考えたとき、自分自身はサラリーマンには向いていないかもしれないと思ったんです。これまで規模の大きな会社も小さな会社も経験してきましたが、特に大手の会社であれば、仕事ができる人もできない人も同じ給料をもらうことがあります。もちろん、それはある意味で平等ですね。でも、自分はそうではなく、能力で評価される仕事に就いてみたいと思ったんです。

自分でビジネスをすれば、実力がイコール、売り上げという結果で現れます。独立開業してみたい、かといって、高卒で勉強もろくすっぽせず、ギリギリの成績で卒業しましたし、製造業で働いた経験はあってもキャリアがない、学歴もスキルもキャリアも何もない。じゃあ、ここで勉強をしようと思い立ち、たまたま目指してみたのが行政書士資格でした。





そこから一念発起して資格の学校に通い、勉強しました。最初は何から手を付ければいいかわからないような状態でしたが、一年で合格することができました。移住先で友達もいなかったのも、逆に勉強しかすることがないのも幸いしました(笑)。人生初の勉強漬けの日々でしたね。

広: 仕事を辞められて、移住されて、試験を受けて、と怒濤の展開ですね。移住先で未経験での独立開業でしたが、ご不安はありませんでしたか？

景: 不安はなかったですね。「何とかやるだろう」くらいの気持ちでした(笑)。

広: 豪胆ですね。ちなみに事務所名の「リエゾン」はどのような由来でつけられましたか？

景: リエゾンは、フランス語で連携とか橋渡し、つなぎ、のような意味だそうです。事務所名の候補をあれこれ探しているときに、医療現場で使われる言葉でもあると聞いてこれに決めました。妻が看護師なのもあって、いいかなと思ったんです。

広: 行政書士としての初仕事はどんな分野でしたか？

景: 行政書士として初めて担当した仕事は、指名願い※2でした。妻の父が、知り合いの方に私のことを紹介してくれて、お会いしてみたところ任せしてみようと思ってくださったようです。受けたはいいものの、まったくやったことがない仕事だったので、まず「指名願い」とは何だろう？というところからスタートして、本当に苦心しました(笑)。とにかく片っ端から調べたり、いろいろな方に尋ねたりしてなんとか無事に終わりました。

広: そこから、業務の幅を広げられたんですね。現在メインにされているのは建設業関連の業務が多いですか？

景: そうですね。自分自身が現場にいたこともあり、建設業の現場でものづくりに携わっておられる方のお手伝いできればと思っています。

製造業で働いていた経験は自分自身の強みでもあると思っていて。建設業の社長さんとお話していて、専門的な話でもよく分かりますし、興味が持てます。

例えば、鉄の製品を作る際、溶かした鉄を入れる炉がありますが、その部分に携わるのはタイル・ブロック・れんが工事業の方なんです。その方と話をしていた際、炉の工事の話になって。製鉄の会社で働いていた時に、炉の工事を発注する側だったので細かな話もよく分かり、「そんなことまでよく知ってるね！」と驚かれました。

自分は、属性が建設業の社長さんたちと近いと思うんですね。高卒で、もともと現場の作業員。ガスやアーク、玉掛け、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者や安全



衛生責任者もできますし、天井クレーン運転資格も持っています。仕事をする際も、仕事だからといって興味のない分野のことでやる、というのではなく、興味の持てる建設業の分野に絞りたいと思っています。自分が興味を持ってない分野について無理に勉強するよりは、その分野が得意な行政書士と連携して仕事を進めれば良いかなと。

建設業の社長さんから、「行政書士っぽくないね」「君は話しやすい」と言ってもらうことも多く、ありがたいです。建設業の許可のことで打ち合わせしていたら、会話が弾んでどんどん脱線して、気が付いたら4時間経過していたということもありました(笑)。

広: 確かにお話、とてもお聞きしやすいです。お仕事では、やはり、人とのつながりなども重視されていますか？

景: そこは大切にしています。行政書士同士だけでなく、他の士業の方とも横のつながりを作りたくて、同年代の弁護士や司法書士と交流する会を作ったりもしました。

異業種の方とのつながりも積極的に作るようにしています。私は、妻の地元へ移住したので、人脈がまったくない土地での独立開業でした。その中でできることは…と考え、いろいろな経営者団体に参加することにしました。まずは自分自身を認知してもらうために、時間やお金を投資しようと思ったんです。

たくさんの経営者の方と交流し、コミュニケーション能力を磨くことで、お客様とのお話も弾むようになりました。また、会の運営上のさまざまな役も担当するようにしました。その中で自分自身が成長できたことが、今、仕事をいただくことにつながっていると感じます。

ホームページや SNS を通じて宣伝し、集客を目指す方法もありますが、それだと、単純に価格での勝負になることも増えます。それに対して、人から人への紹介の場合、「誰に頼むか」、すなわち相手の人柄を重視して依頼することになると思うんです。

そうして仕事がスタートすれば、お客様にも、きちんとコミュニケーションが取れることやスムーズなやり取り、丁寧な仕事で満足いただけます。無理に低価格にすることよりも、価値のあるサービスを提供することを重視したいと思っています。

広: 自己研鑽とさまざまな人脈があって、いまのご活躍につながっているんですね。

景: 僕は関西出身で、母方のおじが墓石関連の事業をしていました。そのおじから「三方よし」という言葉を聞いたのですが、それを自分の仕事でも大切にするようにしています。





「売り手によし、買い手によし、世間によし、三方よし」です。もちろん、お客様のためになることは大切ですが、自分だけが苦勞をしてもよくはありません。

例えば、僕のような行政書士とは合わないと思われる方もいらっしゃると思います。そんな時は、相性のいい別の行政書士をご紹介したいと思っています。「三方よし」を目指すことで、本当に満足いただけるのかな、と。

広:最後に、今後の展望についてお話しいただけますか？

景:ありがたいことに、今、お仕事をいただけているので、事務所の場所を移して補助者の方に来ていただくかと思っています。業務量としては、まだまだなんですけど、余裕のあるうちに人を雇わないと、業務がとて忙しくなってからでは教えることもできません。ですから、ある程度売り上げが確保できた段階で次のアクションに移っておかないと、と思っています。

広:それはおめでとうございます。いい方とのご縁があるといいですね。本日は、ありがとうございました。

※1 クレーンのフックに荷を掛ける作業

※2 公共工事等への入札参加のために、自治体の名簿に登録されるための申請手続き



～行政書士プロフィール～

景山 康幸(かげやま やすゆき)

登録年月日:令和4年6月1日

事務所所在地:福岡県行橋市中央7丁目8-28

この記事は令和7年6月1日の情報です